

「アンデレ・純朴な伝道者」

2014年05月28日

アンデレは、第一の弟子になったペトロの弟です。ヨハネ福音書は、アンデレは一人の友と共にバプテスマのヨハネに弟子として従っていたと書いています。師・ヨハネは、主イエスを見て「見よ、神の小羊だ」と言い、自分から離れて主イエスに従うように促します。促されるままに、二人は主イエスの後ろをついていきます。すると突然、主イエスは振り返り「何を求めているのか」と問われます。戸惑った二人は、「ラビ『先生』、どこに泊まっておられるのですか」と突拍子もない返事をします。「来なさい。そうすれば分かる」と言われ、その夜、主イエスの言葉を聞きます。翌日、アンデレは兄・ペトロのところに飛んで行き「わたしたちはメシア『油を注がれた者』に出会った」と告げ、兄を主イエスのところに連れて来ます。昨夜の話聞いて、主イエスをメシアと信じ、真っ直ぐにペトロに伝道したのです。以来彼は、純朴な心を持って主イエスに従い、苦しむ者を受け入れる主イエスの言葉と業に魅せられていきます。

ガリラヤの抑圧された民衆は、主イエスを慕い、押し寄せてきました。主イエスは飢えている彼らを見て、フィリポに「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と試みの問いを出します。フィリポは「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と状況を見て、計算機のように金額をはじき出します。主イエスとフィリポの会話を一人の少年が聞いていました。彼はアンデレの袖を引っ張り、「僕、五つのパンと二匹の魚を持っているよ」と言います。フィリポは気難しそうでしたが、アンデレは優しそうに見えたのでしょう。アンデレは少年の言葉を受けて、主イエスに「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます」と言います。この場には、およそ五千人がいました。五千人に対して五つのパンと二匹の魚では話になりません。アンデレも「けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」とつけ足していますが、申し出そのものがとんでもない外的外れです。しかし、彼は、それを言い出すような純朴な人だったのです。事実上、アンデレの申し出によって、主イエスの祝福に与り、民衆は食べて満腹しました。小さな献げ物が大きな祝福に与ったのです。

私は、自分のような者が神の言葉を語る牧師になることは途方もない申し出であると思いました。しかし、私の小さな力を献げてみよう、あるいは祝福に与るかも知れないと思い、牧師への道に進みました。ですから、私の師はアンデレです。

イスラエル最大の「過越祭」には、他国の人も興味を持って、見にきます。ギリシャ人が都・エルサレムに向かっていました。来てみると、主イエスのうわさで持ち切りです。関心を持った彼らは、主イエスに会ってみたいとフィリポに紹介を頼みます。当時、異邦人は汚れているとみなし、口を利かないという習わしでした。フィリポは、主イエスがギリシャ人に会ってくれるだろうかと思い、アンデレに相談します。すると、アンデレは何の躊躇もなく、フィリポを従え、主イエスにギリシャ人からの面会の要望を伝えています。主イエスは広い心を持ち、人を差別しないことを知っていたのです。アンデレは、兄・ペトロの陰に隠れていますが、主イエスの心を知って、この方を伝えたいと無心に従った弟子です。